

ITを最適化してデジタル
変革を加速するための
8つのベスト・プラクティス





概要

IT 運用の合理化、柔軟性の向上、コスト削減に努める企業によって、クラウドへの移行が積極的に進められています。ただしクラウド導入の大半は、クラウド・ネイティブで顧客向けの新しいアプリケーションを対象としています。

現在クラウドへの移行が完了しているワークロードは、全体の 33% にすぎません。つまり 67% のワークロード (その大多数がエンタープライズ・アプリケーションです) は、依然としてレガシー・インフラストラクチャーで実行されています。¹

当社が調査したほとんどの企業は、今後 3 年以内に複数のクラウドを使用することを計画しています。² こうした先進のハイブリッド・マルチクラウドの登場によって、IT リーダーは既存の IT インフラストラクチャーへの対応において新たな課題に直面します。多くの企業は、複雑なマルチクラウド環境を管理するための IT スキルを社内で調達できません。

現在、クラウドへの移行は急ピッチで進められています。企業が競争力を維持するには、新しいデジタル・サービスを開発し、パブリッククラウドとプライベートクラウドの両方で、安全かつ復旧力があり、拡張可能でオープンなプラットフォームを使用して、革新的なビジネス・プロセスを推進する必要があります。企業は適切なツールとスキルを活用して、複数のベンダーやプラットフォームにわたる複雑なマルチクラウド環境を設計、導入、管理しなければなりません。

しかし、業務上重要なエンタープライズ・アプリケーションを移行するには、リスクとコストを抑制しながら、既存の IT インフラストラクチャーとスキルセットを管理する必要があります。端的に言うと、クラウドへの移行を成功させるには、ビジネス目標と既存の IT 環境を上手く連携させることが求められます。

1.

目標を設定する

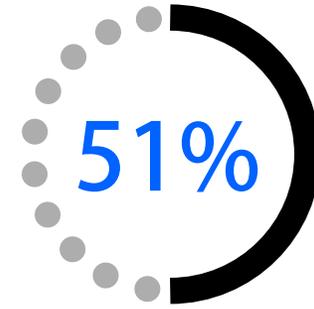
新しいアプリケーションを導入し、顧客向けワークロードをクラウドに移行した後、多くの企業ではクラウド移行の第2段階に入る際に新たな課題が発生します。すなわちレガシー・アプリケーションの移行です。

レガシー・ワークロードをクラウドに移行すると柔軟性が向上し、コストが抑制され、お客様の期待により適切に対応できるようになります。

この移行作業は、綿密な計画、最小限のリスク、最大限の費用対効果をもって行う必要があります。

Broadridge Financial Solutions 社が IBM と協力してどのように目標を設定し、コントロールされた方法でクラウドへの移行を実現したかをご紹介します。同社は1日数兆ドルに上る取り引きを扱う企業です。移行の結果、ダウンタイムや業務を中断することなく、全体的なパフォーマンスが30%改善されました。²

[ケース・スタディー \(英語\)](#) で詳細を見る



ITリーダーの51%が、クラウドへの移行の主な目的は、可用性と稼働時間の最大化であると答えています。³



2.

クラウド導入のハードルを理解して対処する

クラウドへの移行は、ほぼすべてのデジタル/ビジネス変革戦略にとって必要不可欠です。クラウドを利用すると、イノベーションの早期実現、事業規模の効果的な拡大、コストの抑制、データの有効活用、カスタマー・エクスペリエンスの向上などが可能になります。クラウドによって、人工知能 (AI)、モノのインターネット (IoT)、ブロックチェーンなどの最先端テクノロジーも利用しやすくなります。

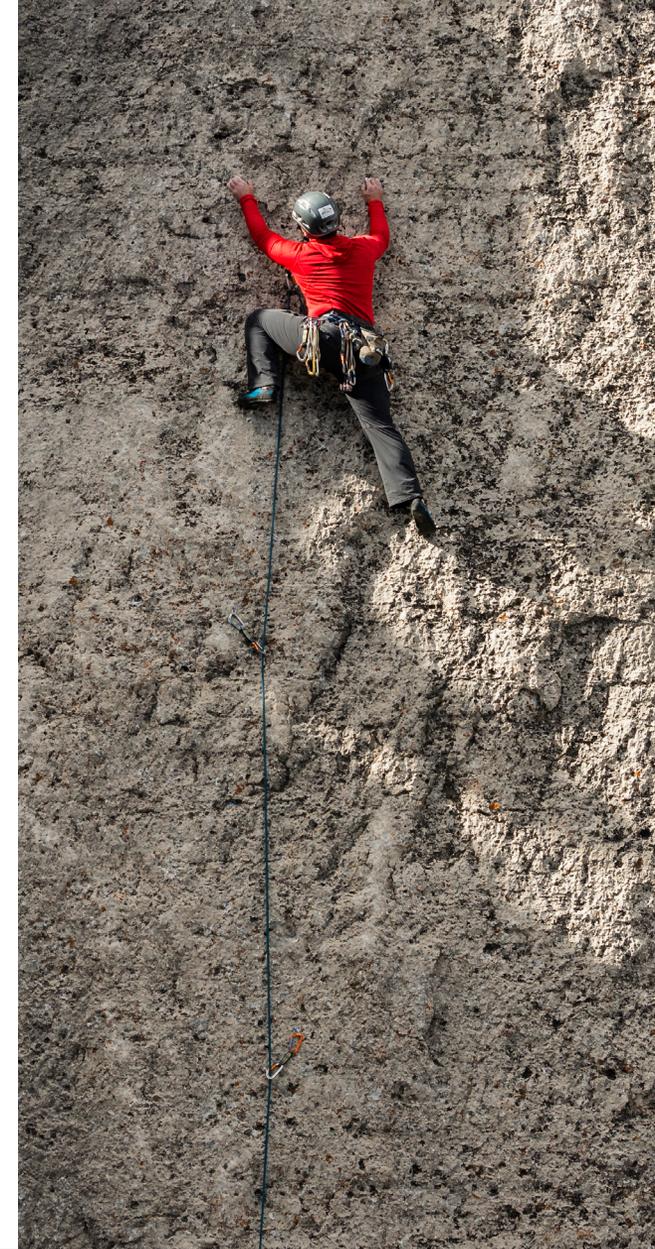
クラウドの導入と移行は複雑で、リスクを伴います。セキュリティとレジリエンスに関する懸念、クラウド間でのデータ共有、クラウドの導入および管理に関する社内スキルの不足などが、ITリーダーたちに導入を躊躇させることもあります。

エンタープライズ・アプリケーションを旧式のレガシー・インフラストラクチャーからクラウドに移行する際のリスクと、それを回避する方法をご紹介します。

[IBM ソート・リーダーの見解を読む\(英語\):
クラウドへの安全な移行](#)



ITリーダーの59%が、ワークロードのクラウドへの移行を妨げる課題要因として、レガシー・システムを挙げています。!



3.

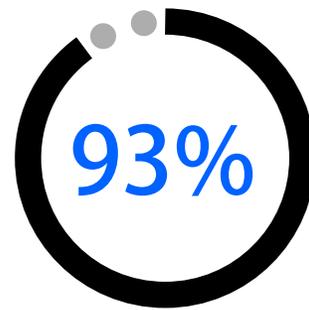
エンタープライズ・ワークロードの移行に向けた詳細なロードマップを作成する

ワークロードをクラウドに移行する企業は増加しています。しかし、その多くは体系的な戦略ではなく、断片的なアプローチとなっています。まずはじめにSaaS およびクラウドネイティブ・アプリケーションがクラウド上に実装されます。エンタープライズ・アプリケーションの移行はそれよりもさらに複雑で、時間もかかります。

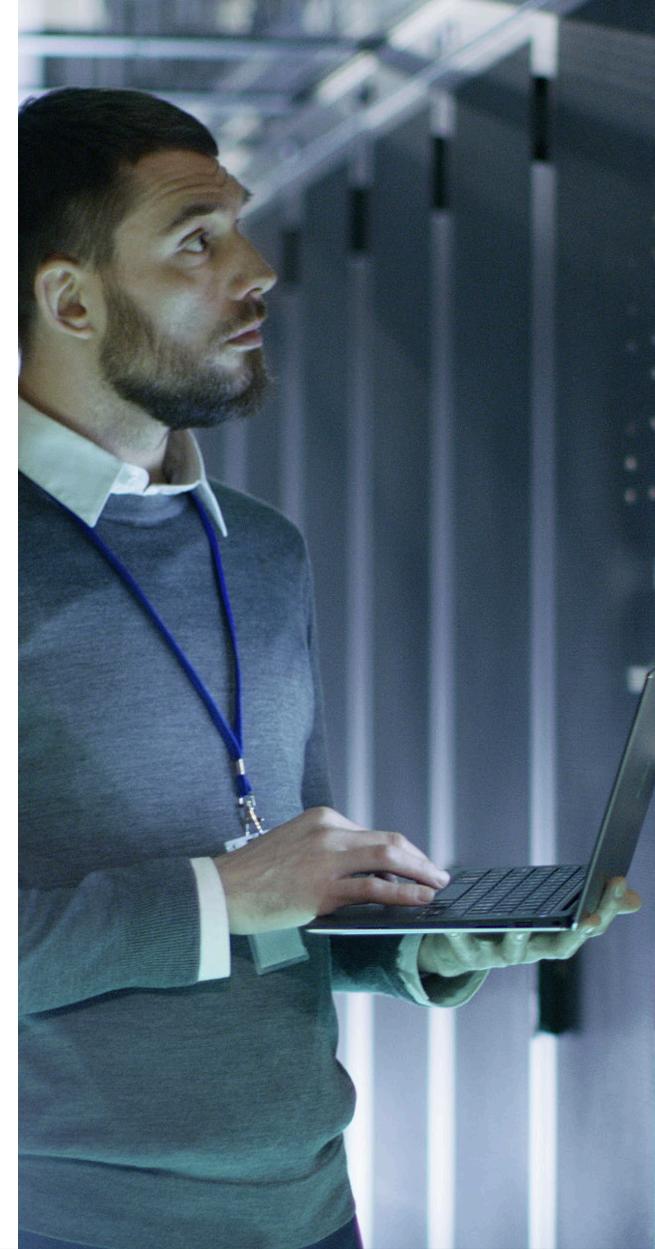
たちまちITリーダーを悩ませるのがこの問題です。なぜなら、彼らは複数のクラウドを導入・管理して、さまざまなワークロードを実行しているからです。彼らの悩みをさらに増大させるのがシャドーITです。これは、IT部門の確認や承認なしに社内で使用されるパブリッククラウド・アプリケーションおよびサービスをさします。

IBM は、クラウドへの移行の計画と実施において豊富な経験を持っています。綿密に計画され、適切に調整されたクラウドを導入することにより、企業の全体的なニーズに応えます。

[詳細はこちら\(英語\)](#) クラウド移行の進め方



93% の企業が、サード・パーティーの専門家を雇用してクラウドへの移行を実施しています。⁴



4.

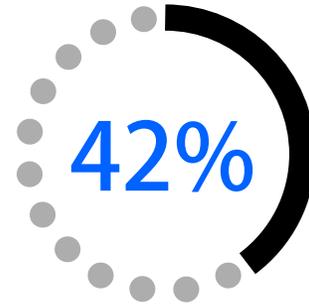
セキュリティ/ レジリエンス 戦略の盲点をなくす

クラウドへの移行に伴い、セキュリティ/
レジリエンス・モデルは劇的に変化しています。
クラウド・ベースのセキュリティ
標準を導入・管理する方法をよく知る企業でさえ、
レガシー・アプリケーションが必ずしもそれらの
標準に適合しているわけではないことに
気付く場合があります。

シャドー IT の増加に加え、IT リーダーが考える
サイバー・セキュリティ保険の内容と実際の
保証範囲とのギャップは、適切に保護されていない
IT 部門に深刻な影響を与える
可能性があります。

Forbes insights の Global Survey は、企業の
セキュリティとレジリエンスに潜む盲点を
調査しています。

[Forbes insights の Global Survey を見る \(英語\)](#)
サイバー・レジリエンスにおける認識のギャップ



自社が重大なサイバー攻撃を
受けた際に、業務に大きな支障を
きたすことなく復旧できると
考えている IT 部門の役員は、
わずか 42% です。⁵



5.

クラウドへの移行によってビジネスの俊敏性を向上する

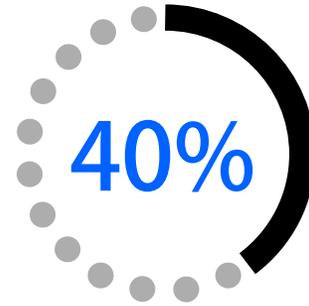
クラウドへの移行とアプリケーションのモダナイゼーションは、コストと効率性の改善のみを目的に推進されてきました。しかし、今後はそうではありません。企業のビジネス目標は進化しています。これからの目標には、ビジネスのスピード、俊敏性、およびイノベーションの強化や、ITパフォーマンスの真の最適化が含まれます。

IDCは、クラウド・アーキテクチャーのビジネス価値を最大化するために、以下の3つの項目を中心としたアプローチを構成することを企業に推奨しています。

- 成功戦略を策定する
- サード・パーティーと協力して危険を回避し、成果を早期に達成する
- 繰り返し実施可能で統制のとれたアプローチによってリスクを予測する

IDCは、レガシー IT とマルチクラウド環境を保有する多くの企業が直面している課題を報告しています。企業の業績を伸ばし、優れたクラウド戦略のメリットを活かす方法を解説します。

[IDCの調査レポートを読む\(英語\)](#)



企業はビジネスの俊敏性を向上させるために、アプリケーション・ポートフォリオのサイズを40%拡大することを計画しています。⁵



6.

先進テクノロジー によってデータの 価値を掘り起こす

デジタル変革は、堅固なインフラストラクチャー上に強力な基盤を構築し、データを統合することから始まります。

米国の大手医療保険会社の一つである Anthem 社は、レガシー・アプリケーションを移行し、データを単一のビューに表示することで、クラウド向けの強力な基盤を確立しました。

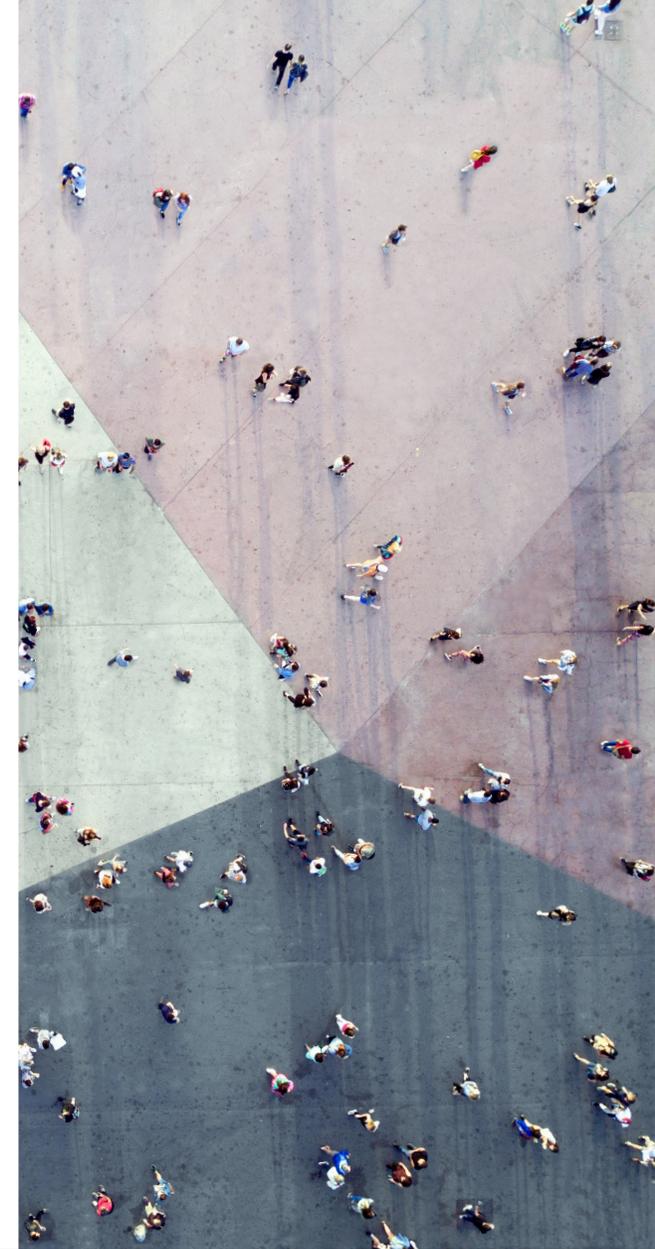
同社は競争力を得るために、自動化と予測分析をシステムに組み込みました。これによって運用が効率化され、加入者の健康改善に役立つ知見が得られただけでなく、イノベーションに再投資するための資金も確保できました。

[事例の詳細を見る\(英語\)](#) to learn more.



1,000,000

100 万人を超える Anthem 社の顧客の問題は、ダイナミック・オートメーションにより解決されています。²



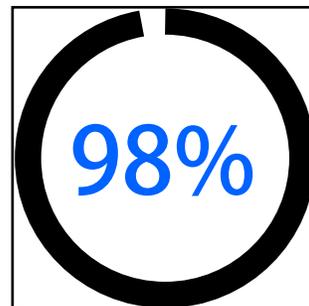
7.

ネットワークをクラウド・トランスフォーメーションに適合させる

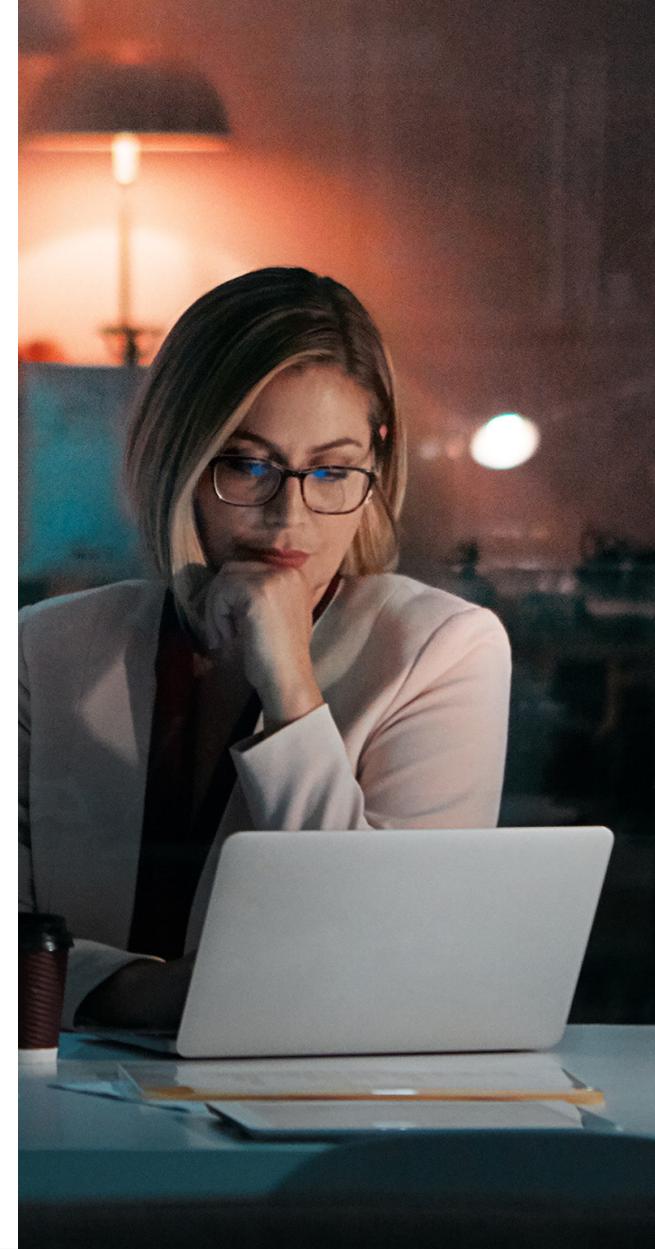
IBM Institute of Business Value の最新調査⁶によると、企業の 98% が今後 3 年以内に複数のクラウド・アーキテクチャーを導入する予定です。

これらのマルチクラウド・ネットワークは、常時使用可能でなければなりません。そのためには、ハイブリッドクラウドの要件に合わせてレガシー・ネットワークを改良する必要があります。ネットワークには信頼性、柔軟性、拡張性、安全性が求められます。さらに、仮想化および自動化テクノロジーによってネットワークの管理が簡素化されていなければなりません。

[登録して Web セミナーを見る](#) デジタル変革の実現に向けて進む、マルチクラウド環境下でのネットワークとセキュリティーを、ソフトウェア化、自動化、ゼロトラスト対応の観点から事例と共に紹介します。



企業の 98% が、今後 3 年以内に複数のクラウド・アーキテクチャーを導入する予定です。⁶



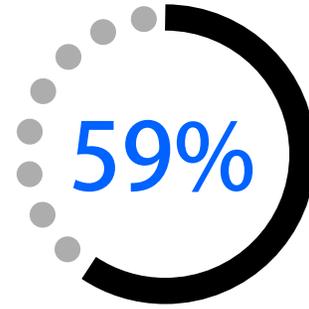
8.

マルチクラウドの 管理を通して クラウドの メリットを最大化する

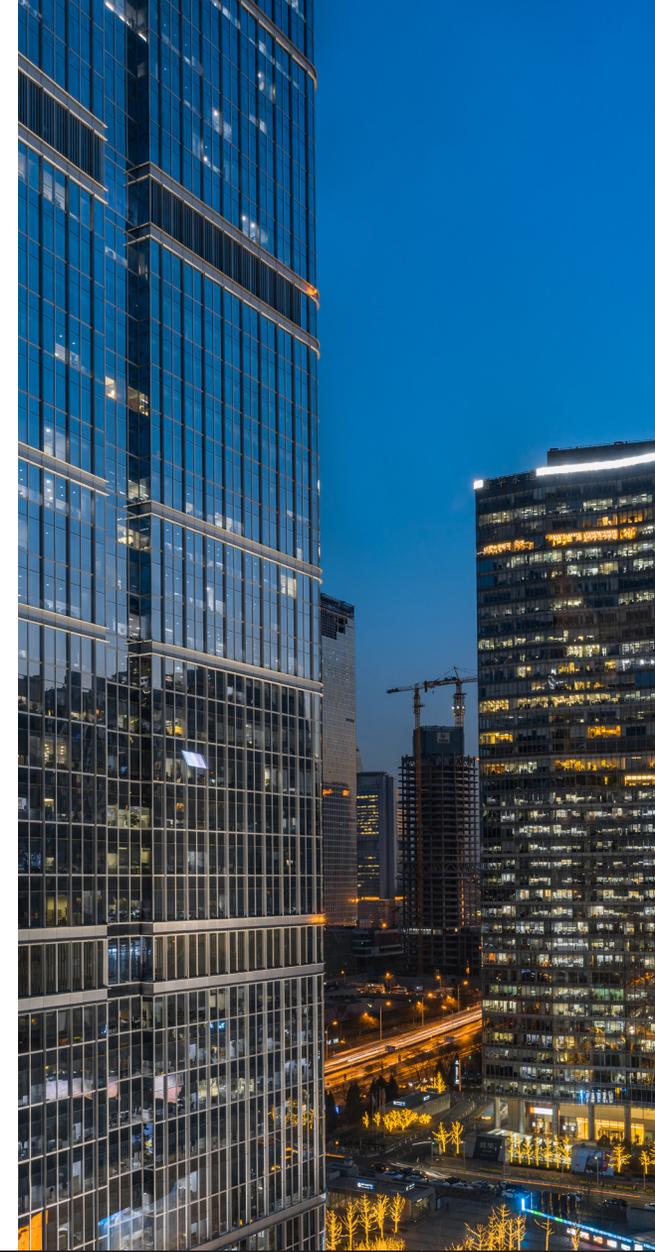
マルチクラウド環境でさまざまなアプリケーションのワークロードを管理すると、多くのメリットがありますが、課題も多くあります。

IDC行った最近の調査では、国内企業を対象に実施したマルチクラウドに関するアンケート調査企業を元に、マルチクラウド環境の課題と取り組むべき施策をまとめています。

[IDCの調査レポートを読む](#)



IT 意思決定者の 59% が、複数ベンダーのクラウド・コンピューティングおよびストレージを採用していると答えています。⁷





IBM Corporation

New Orchard Road
Armonk, NY 10504

Produced in the United States of America October 2019

ibm.com

IBM、IBM ロゴ、[ibm.com](https://www.ibm.com)、および IBM Services は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、次の Web サイトをご覧ください。[ibm.com/legal/copytrade](https://www.ibm.com/legal/copytrade)

本書の情報は最初の発行日の時点で得られるものであり、予告なしに変更される場合があります。すべての製品が、IBM が営業を行っているすべての国において利用可能なものではありません。

本書に掲載されている情報は特定物として現存するままの状態を提供され、第三者の権利の不侵害の保証、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されています。IBM 製品は、IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されます。

お客様は自己の責任で関連法規を遵守しなければならないものとします。IBM は法律上の助言を提供することはいたしません。また、IBM のサービスまたは製品が、お客様がいかなる法規も遵守されていることの裏付けとなると表明するものでも、保証するものでもありません。

1. 「Move to Cloud Survey」IBM Market Development & Insights、2019 年
2. ビデオ: [Broadridge Financial + IBM Services「Delivering scalability and resiliency in the cloud」](#)
3. [「The confident move to the cloud」IBM Market Development & Insights、2019 年](#)
4. Frost & Sullivan「What you need to know about migrating to SAP S/4 HANA」2018 年
5. 「Forbes Insights: Perception Gaps in Cyber Resilience」2018 年
6. [「Assembling your cloud orchestra: A field guide to multicloud management」IBM Institute for Business Value、2018 年](#)
7. 「IDG Research MarketPulse Research, Managing a Multi-Cloud Environment」2018 年 5 月

© Copyright IBM Corporation 2020